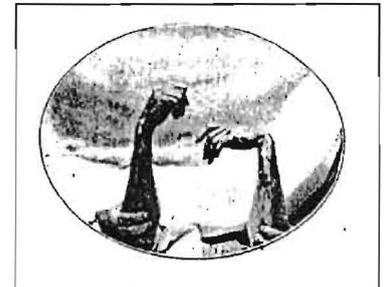


M のついた問題は、マークシートにマークすること。

次の小脳に関する文章は前文 (i) と後文 (ii) とで構成されている。それぞれの文章について、文の中の下線部の記述が次のどれにあたるか。マークシートに (a-d) をマークせよ。

- 前文と後文の下線部 ともに正しいとき (a)
- 前文の下線部のみが正しいとき (b)
- 後文の下線部のみが正しいとき (c)
- 前文と後文ともに誤っているとき (d)

M26 (i) 小脳皮質は虫部-中間部-外側部の縦列構造として区分されるが、細胞構築は部位による差はない。  
(ii) 表層から順に、分子層-顆粒層-プルキンエ細胞層-白質の構造がみられる。



M27 (i) 右の図は、左側小脳に損傷のある患者の筋緊張を観察した図である。  
(ii) 筋緊張の異常のため観察される症状に膝蓋腱反射の振り子様現象がある。

M28 (i) 小脳皮質からの出力細胞は、抑制性の性質をもつプルキンエ細胞である。  
(ii) 小脳核細胞は小脳以外の細胞を興奮性に支配している。

M29 (i) 小脳性の推尺異常は、指鼻試験で調べることが出来る。  
(ii) 小脳性振戦 (tremor) は、力を入れずに手を膝の上に置かせてみることで出現する。

M30 (i) 小脳への入力のうち、登上線維性入力は、直接プルキンエ細胞にシナプス結合する。  
(ii) この登上線維性入力は、もう一つの入力すなわち苔状線維性入力のプルキンエ細胞への興奮性効果を増強する作用があり運動の学習に関与している。

錐体路系について次の問に答えよ

1 つぎの症状で錐体路の病変 (慢性期) でないものはどれか。すべて選りマークシートにマークせよ。(M31)

- a バビンスキー反射
- b 痙性麻痺
- c 深部反射の低下
- d 筋線維性攣縮
- e 足間代

2 上の問題文に関連し、次の文章の中の下線部の用語の説明が正しいければ丸をつけよ。もし誤っていれば、空欄に正しい説明を記述せよ。

a 痙縮では、関節を験者がゆっくり曲げたり伸ばしたりしようとするとき強い抵抗を示す。

b 深部反射とは、身体深部にある内臓器に現れる反射である。

c バビンスキー反射は、足底を親指から踵に向かって鉄筆のような硬いもので皮膚を刺激すると足が底屈する現象である。